

# Budapest Open Access Initiative の思想的背景と受容

Philosophical background of Budapest Open Access Initiative and its acceptance

岡部晋典, 佐藤翔

Yukinori OKABE, Sho SATO

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba

あらまし：近年，図書館情報学における大きな潮流にオープンアクセス運動がある．この運動を積極的に支援している財団が **Open Society Institute**（開かれた社会財団）である．本稿では，OSI および彼らが中心となり宣言した **Budapest Open Access Initiative**（BOAI）の思想的背景を概観し，その思想が現在のオープンアクセス運動に如何に受容されているかを分析した．

キーワード：オープンアクセス， **Budapest Open Access Initiative**，開かれた社会，カール・ポパー，ジョージ・ソロス

## 1. はじめに

本稿ではオープンアクセス（OA）を支援している財団の一つ，**Open Society Institute**（開かれた社会財団，OSI）が中心となり宣言した**Budapest Open Access Initiative**（BOAI）<sup>1)</sup>とその周辺について論じる．近年の図書館情報学にかかわる潮流の一つとしてOAがある．これはインターネットを介した学術論文等への障壁のないアクセスである．OAについてはアクチュアルな問題として，電子ジャーナルの契約料の高騰と，それに対するアンチテーゼという形での議論をしばしば目にする．たしかに喫緊の課題として価格の高騰は問題とされうるものであるが，一方で金銭的な側面にとどまる議論だけでは皮相的な現象把握に留まる虞がある．そこで本稿では，OA運動に影響を与えているOSIの思想的論拠に焦点をあて紹介する．OSIはヘッジファンドとして有名なGeorge Soros（1930-）が主催する「開かれた社会」を推進する財団である．このSorosが私淑する哲学者が，20世紀の科学哲学から政治哲学まで大きな影響を与えたといわれるKarl Popper（1902-1994）である．そこで，Popperの「開かれた社会」観を概観した上で，「開かれた社会」が影響を与えていると考えられるBOAIの受容状況を分析する．

## 2. 開かれた社会

### 2.1 Popper による説明

科学哲学者であるK. Popperが提唱したものには二つのよく知られた概念がある．一つは，科学と疑似科学の境界設定問題である「反証可能性」<sup>2)</sup>であり，もう一つは「開かれた社会」<sup>3)</sup>である．反証可能性とは，「科学的理論は自らが誤っていることを確認するテストを考案し，実行することができる」というものである．一方，疑似科学は自らの誤りを認めるテストを考案できないか，ないしは自らの誤りを認めず，常にアドホックな言い逃れによって理論の延命を図るという．この，自らが誤りを認めることができるからこそ「科学的」であるというパラドキシカルな考え方は，Popperが1934年に独語で上梓した『探求の論理』や1959年に前掲書を英訳出した『科学的発見の論理』で広く知られるようになり，現在でも，疑似科学と科学の線引き問題でもっとも引用される概念である<sup>4)</sup>．このように反証可能性とはトライアル&エラーの方法論であり，これを社会に適用させたのが「開かれた社会」の概念である．「開かれた社会」は1945年に上梓された『開かれた社会とその敵』で広く知られるようになった．『開かれ

た社会とその敵』は、マルクス主義やナチズムを激しく批判し、また、全体主義の萌芽をプラトンに求めているものである。開かれた社会の対比概念となる「閉ざされた社会」は、概説的には以下ようになる。「科学的」理論によって裏打ちされたと僭称する社会計画は、賢人政治であるがゆえに誤りを認めない。それゆえ軌道修正の機会を逸するがために、逆説的にディストピアを招く。一方開かれた社会は、相互討論により漸的に社会を改良する思想である。ここには賢人的指導者は存在しない代わりに、常に「自らの誤りを糾す」機会が与えられるがために、全体主義的地獄は招かないという。Popperによると、記録物を媒介にすることによる相互討論が開かれた社会の根底にあるとされる。京セラの主催する京都賞をPopperが受賞した際、彼は来日講演を行っているが<sup>5)</sup>、その際Popperはキケロの資料に依拠しながら、ホメロスの出版がアテナイの民主運動の礎となったと論じている。またPopperによると、ギリシャ時代の民主運動をより巨大に発展させたものがGutenbergによる活版印刷であるという。このようなPopperの発想は、メディアや記録物のあり方や利用の意義を検討してきた図書館情報学ともかかわるものと考えられる。事実、記録物を媒介とした対話というアイデアは、後述するSorosにも引き継がれている。

## 2.2 G. Soros と開かれた社会

G. Sorosは世界最大のファンドマネージャーであり、ポンド危機の際には莫大な利益を上げ「イングランド銀行を叩きつぶした男」と称され嫌悪されると同時に最大規模の慈善家とも言われる。Sorosについての伝記は複数邦訳として存在する<sup>6)7)</sup>。Sorosにおける慈善事業は「開かれた社会」に深くコミットしている。Sorosは1949年にLondon School of Economics (LSE)に入学し、Popperの『開かれた社会とその敵』に感銘を受けている。Soros自身、LSEの在学中はPopperのような哲学者、あるいはKeynesのような経済学者を自らの目標としていたようである。しかし学力及び外国人という点がSorosのその夢を阻む。その後のSorosの足取りは他の伝記等に譲るが、いずれにせよSorosの出身であるハンガリーにソロス財団を設立した後に行われた「コピー機事件」が白眉であろう。これは主要な大学などにソロス財団がコピー機を無償で寄付したものであったが、コピー機の情報伝達力によりハンガリー共産党一党独裁の「閉ざされた社会」が崩壊したものである。以上、記録物の伝達によって開かれた社会を実現しようというのがSorosの目論見である。Sorosは同様の目的意識でOAにもかかわっており、そこで中心的役割を果たしているものが次章で紹介するOSIである。

## 3. OSIとBOAI

OSIは1993年にSorosによって設立された団体で、中央・東ヨーロッパおよび旧ソ連地域を中心にソロス財団の活動をサポートする<sup>8)</sup>ことを目的とする。33のイニシアティブからなり、そのうちの一つInformation Program部門は開かれた社会実現のため、特に貧困地域における知識・情報のアクセス、交換、生産の強化を目的の一つとしている。OSIはこの部門を中心としてOA運動に積極的に参加しており、中でも重要なのがBOAIへの関与である。BOAIは2002年に発表された、学術文献をインターネット上で自由に利用できるようにすることを目的とした宣言である。OAとは何かを定義し、その実現のための2つの道（セルフアーカイビングとOA雑誌）を提示したこと等からOA運動の契機とされている。同様の宣言には後に発表されたBerlin宣言<sup>9)</sup>やBethesda宣言<sup>10)</sup>があるが、これらとBOAIの大きな相違点としてBOAIではその第一段落で「文献へのアクセス障壁を取り除くことで研究が加速し…（略）…人類を共通の知的な対話と知識探究の場へ結びつける基礎を築くだろう」とし、OA運動の目的の一つとして、また、Popperが「よりよき世界を求めて」<sup>11)</sup>と呼ぶような「人類の共通の対話の場」を作ることを組み込んでいる。BOAIは2001年にOSIの主導により開催された会議に基づくものであり、このことが他の宣言にはないOSIの意図をBOAIに盛り込むことになった。OSIは

BOAIの発表に関わったほか、OA運動に300万ドルの資金を援助し、更にはDirectory of Open Access Journal (DOAJ)設立にも関与するなどその後も強力にOA運動を後押ししている。しかし、この意図がOA運動においてどれだけ認知され、受容されているのかは必ずしも明らかではない。そこで以下ではBOAIがOA運動にかかる文書の中でどのように引用されているかの分析から、「開かれた社会」の思想がOA運動にどのように影響しているかを考察する。

## 4. BOAIの引用状況調査

### 4.1 調査方法

分析の対象は”Bibliography of open access”<sup>12)</sup>収録文献のうち、オンラインで閲覧可能なものとする。同サイトは2005年に出版された書籍『Open Access Bibliography』<sup>13)</sup>を加筆・更新しているものであり、論文や図書に限らずwebサイトや著名なブログ記事等も含む網羅的なものである。これらの文献を全てダウンロードした後、全文検索により”Budapest Open Access Initiative”を含むものを抽出した。BOAIには前述の第一段落のほか、しばしば引用される二つの段落がある。それはOAとは何かを定義した第三段落、OA実現のための2つの道について説明した第五段落である。そこで本稿では抽出した各文献がこれら3つの段落の内容を引用しているか否かを筆者ら2名により分析した。さらに第一段落を引用している文献については具体的にどのような文脈から言及しているかも確認した。

### 4.2 結果

“Bibliography of open access”掲載文献中、オンラインで入手できかつ全文検索可能な（映像や画像PDFではない）文献は893件あり、うちBOAIを本文中に含むものは123件であった。表1はこれらの123件がBOAIのどの段落に言及しているかを示したものである。

表1. BOAIの引用状況

		第三段落に言及	第三段落に非言及
第一段落到言及	第五段落に言及	1	2
	第五段落に非言及	0	1
第一段落到非言及	第五段落に言及	1	18
	第五段落に非言及	24	76

表から第一、第三、第五いずれの段落にも言及していないものは76件、いずれかに言及しているものは47件であった。言及していないものの多くはBOAIの名称のみ挙げるか、実際の活動を中心に扱うなど本文の内容に言及していないもの、あるいはごく一部のみ取り上げているものである。本文に言及している47件のうち、第三段落（OAの定義）に言及しているものは全部で26件、第五段落（OA実現の2つの道）に言及しているものは22件である。大部分の文献はBOAIをOAの定義の文脈かOA実現の2つの道の説明のために引用していると言える。47件中第一段落到言及しているものは4件にとどまり、さらにそれらは「雑誌論文へのアクセス改善のビジョン」等として該当部分全体を紹介するにとどまり<sup>14)</sup>、OSIの意図する「人類の共通の対話の場」についての踏み込んだ言及は全く行われていない。以上より、BOAIは実際の活動面だけでなくその本文についてもOAを定義し、その実現のための2つの道を示した点で広くOA運動の中に受け入れられている一方で、OSIの本来の意図でありPopper, Sorosの流れを組む「開かれた社会」実現のための「人類の共通の対話の場」に言及している部分はほとんど引用されておらず、された場合でも意識的な言及は行われていない。ここからOSIはOA運動全体に大きな貢献を果たしているが、その意図するところは運動の中でほとんど意識されていないことが伺える。

## 5. 考察と今後の課題

OSIの理念を尋ねたものとして、OSIに参加しているMelissa Hagemannへのインタビュー<sup>15)</sup>がある。彼女は「開かれた社会」の思想をオープンアクセスと絡め具体的に説明している。しかし結果で確認したように「開かれた社会」の概念はOSIの基本理念にも拘わらず、実際のOA運動のなかではほぼ無視されている。この意図と結果の乖離の原因については、以下のような可能性が考えられる。(1) OAにかかわる運動家はプラクティカルな問題に興味を示すため、思想的根拠にまで踏み込む必要がないと考えている(2) OA運動に参加する人々の背景は様々であり、達成すべき目標は共有できるものの、その参加する動機の背景は共有できない可能性。更にいえば、OA運動は異なる背景を持つ多様な人々が参加しておりさまざまな論争を孕むからこそ、隆盛を誇っているように見えている(3) そもそもPopper自身の哲学者としての立ち位置が傍流である影響。20世紀に様々な影響を与えたとはいえ、哲学的思潮の主流とされる言語哲学、あるいはマルクス主義からは距離をおきつつけていたのがPopperである。また「開かれた社会」はOA運動に参加していても、主義の異なる国——例えば一党独裁など——にとっては受け入れがたい概念であり、それゆえに言及されない。以上の原因が考えられるが、それ以外の可能性も当然存在するであろう。以上、本稿は思想と運動の乖離の現状については実証的に指摘できたが、原因の究明には至らなかった。今後、テキストの詳細な分析によりこの原因を明らかにする必要がある。

## 文献

- [1] "Budapest Open Access Initiative". <http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>, (参照2009-05-17).
- [2] Popper, K. R. 实在論と科学の目的. 小河原誠, 蔭山泰之訳. 岩波書店, 2002, 370p.
- [3] Popper, K. R. 開かれた社会とその敵. 内田詔夫, 小河原誠訳. 未来社, 1980, 380p.
- [4] 伊勢田哲治. 疑似科学と科学の哲学. 名古屋大学出版会, 2002, 282p.
- [5] Popper, K. R. "ヨーロッパ文化の起源—その文学的および科学的根源". 開かれた社会の哲学—カール・ポパーと現代. 長尾龍一, 河上倫逸編. 未来社, 1994, 241p.
- [6] Kaufman, M. T. ソロス. 金子宣子訳. ダイヤモンド社, 2004, 492p.
- [7] 橋本努. ジョージ・ソロス——投資と慈善が世界を開く. インターコミュニケーション. 1999, 2000 winter号, p.160-176.
- [8] "About OSI and the Soros Foundations Network". <http://www.soros.org/about/overview>, (参照2009-05-17).
- [9] "Berlin Declaration on Open Access to Knowledge in the Sciences and Humanities". <http://oa.mpg.de/openaccess-berlin/berlindeclaration.html>, (参照2009-05-17).
- [10] "Bethesda Statement on Open Access Publishing". <http://www.earlham.edu/~peters/fos/bethesda.htm>, (参照2009-05-17).
- [11] Popper, K. R. よりよき世界を求めて. 小河原誠, 蔭山泰之訳. 未来社, 1995, 390p/
- [12] "Bibliography of open access". [http://oad.simmons.edu/oadwiki/Bibliography\\_of\\_open\\_access](http://oad.simmons.edu/oadwiki/Bibliography_of_open_access), (参照2009-05-17).
- [13] Bailey, C. W. Open access bibliography: liberating scholarly literature with e-prints and open access journals. Association of Research Libraries, 2005, 130p.
- [14] Friend, F. J. Improving access :Is there any hope?. Interlending and Document Supply. 2002, vol.30, no.4, p.183-189.
- [15] Poynder, R. "Interview with Melissa Hagemann of the Open Society Institute". Open and Shut?. <http://poynder.blogspot.com/2005/06/interview-with-melissa-hagemann-of.html>, (参照2009-05-17).